

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	総合					
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① くくり募集、学科・コース選択制などは、本校独自の特色であると感じている生徒が80%以上である。	・ガイダンスや工業技術基礎の授業などを通して、生徒一人ひとりに合った学科・コース選択ができるよう指導する。	A	A	A	1年次の工業技術基礎の各科実習等の授業をとおり、学科・コース特有の学びを行った。また、コース選択に際して、生徒との個人面談を実施し、将来の進路を考えを行った。本活動を継続的に行いたい。	学習成果発表会を通して、生徒の視点による専門性が非常に特色あると高く評価された。中学時に不登校傾向の生徒が専門教育を通じて成長している姿を見ることができ大きな成果と意見があった。今後は研究の深化や、企業・中学校への戦略的広報を通じ、地域での知名度と独自性をさらに高めていくことが期待されている。		
		② ものづくり教育(工業科目の学習や実習)を通して、実践的な技能・技術が身に付いていると実感している生徒が80%以上である。	・基礎、基本をしっかりと身に付けた上で、各学科の特徴を活かせるよう指導する。 ・課題研究への積極的な取り組みや学習成果発表会などを通して、生徒の満足度を高める。	A	A	B	1年生は、朝学習も活用して学習に取り組み、計算技術検定では合格者が6割であった。2・3年生は各科の専門性を活かして各種資格・検定に挑戦することをとおして、生徒の活動意欲が向上した。電気科の生徒がテクノフェアで発表を行うなど、課題研究に積極的に取り組む姿勢が見られた。今後も基礎、基本を身に付けさせるよう指導を行う。			
		③ 環境に配慮した取り組みや、実業高校として地域に期待されている立場を理解し、将来にむけた努力をしている生徒が80%以上である。	・日常からの清掃活動などを通じた環境意識の推進やごみ分別を徹底し再資源化を目指すとともに、自治体の補助制度を活用する。資源リサイクルを推進した成果を生徒の課外活動へ活かす。	B	B	A	例年以上に資源リサイクルをすすめ、活動にて得られた成果を学習活動に反映するなど生徒の自主的な雰囲気も生まれ初めている。今後も無理のない活動を継続的に進めていけるよう地に足を付けて取り組んでいきたい。			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 資格取得に挑戦し、卒業までに3つ以上の資格を取得している生徒が40%以上(39/90)である。	・ジュニアマイスター顕彰制度や資格取得データベースの積極的な活用。増加単位の確認と資料制作。 ・計画的な指導とともに、補習や個別指導を実施す	A	B	A	R7年12月時点で、3年生の資格の取組状況は、延318件受験、187件合格(合格率59%)。3つ以上合格者36名(51%)であった。	外国籍生徒への日本語支援に一定の評価を得た。進路指導も手厚く、ほぼ全員が内定を得ていることを評価されている。ICT活用への満足度も高い。今後は企業への積極的なPRや探求活動を通じ、地域での知名度と教育の質を更に高めることが求められている。		
		⑤ 学習に積極的に取り組み、学習内容の基礎・基本が定着していると自己評価している生徒が80%以上である。	・職員相互の授業公開と見学、研修などを実施し、「分かりやすい授業」を展開する。 ・朝学習等の取り組みを通じた基礎学力の向上。 ・成績不振指導生徒に対する組織的な指導。	C	B	B	職員間の授業参観や授業関係の研修をすることで、より生徒の現状を理解することができ、それに沿った授業づくりができた。朝学習では、検定の対策などに取り組んでいたため、集中力は身についたと考えられるが、基礎学力が向上したかについては疑問が残る。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 職員会議や学年・科会議において生徒に関する情報交換を月に2回以上実施するとともに、生徒とコミュニケーションを図りながら共通認識に基づく指導を行っている。	・定期的な各種会議における情報の共有。 ・各科、各分掌の協力と生徒への充実した支援。 ・教科担当者会議での共通理解と対応。	A	A	A	学年や科会議等で情報共有し、生徒理解に努めながら学校全体としてきめ細かい指導を行うことができた。教育相談的な配慮が必要な生徒も増えてきているので、特性を踏まえた対応ができるように、校内研修や教員同士での学びあいを深めていきたい。			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 安全管理・安全指導に努め、学校生活の全ての場面において安心して活動できていると感じている生徒が80%以上である。	・専門科目の実習や交通指導を通して安全教育を実施し、学校生活全般において自ら安全管理できる意識を醸成する。	A	A	A	工業高校として授業中における安全指導や毎月の定期点検を丁寧に行うことで、危険箇所の早期発見や適切な修理等に繋げ、事故の未然防止に努めた。また、スタントマンによる交通事故未然防止教室などを実施し、ヘルメットの重要性や交通規範の向上に努めた。	学習成果発表会で中学時に不登校傾向だった生徒の成長など、専門教育を通じた生徒の人間の変容が評議員から高く評価された。部活動への高い加入率や全国大会出場も、学校生活の充実を裏付けている。外国籍生徒への支援や警察と連携した安全・モラル教育も適切であり、総じて指導は極めて適正である。		
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧ 「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	・HRや集会での講話。 ・学期ごとにいじめアンケートを実施。 ・校内巡回等の実施と、日頃からの生徒観察、相談しやすい体制の整備。	A	B	B		いじめ未然防止のために授業や行事を通して人間関係の構築に努めた。また早期発見・早期対応ができるように、生活アンケートやこころの健康観察の実施や各会議において生徒の情報共有を行った。今年度、発言によって嫌な思いをする生徒が多かったため、言葉の使い方や、相手のことを考えた発言ができるようにしていきたい。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 1日の遅刻者数が8人以下である。	・健康に配慮した生活、自己管理の徹底。 ・5分前登校の呼びかけ。 ・学期毎の遅刻指導の徹底。	B	B	A	12月までの147日中138日が遅刻者8人以下であった。うち2日遅刻者0人の日であった。遅刻者が0日の日が増えるように、生徒会による呼びかけや家庭との連携を図り、改善していきたい。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 「自己の生き方」と「職業選択」を関連させた進路指導を行っている、生徒の80%以上が評価している。	・自己理解と職業理解をテーマにした進路学習をLHR等で実施する。 ・外部や内部講師による計画的な進路セミナーを実施する。	A	A	B	進路学習については、学年統一で、あるいはクラス単位で行うなど、取り組み方に違いはあったが、どのクラスでも実施するようになってきた。進路ガイダンスやセミナーは計画通りに実施でき、生徒の進路意識の向上につながった。今後も、進路指導部と学年で密に連携していきたい。	進路行事が役立つと8割以上の生徒が回答し、3年生の内定率はほぼ100%に達している。自己の生き方と職業を関連付けた指導は適切であるとの評価を得た。また、学校での活動を通じた生徒の成長に感謝の音が寄せられた。今後は待遇面のみで判断せず、正確な情報に基づき主体的に選択できるよう、企業PR等の情報提供の強化が期待される。		
		⑪ 進路ガイダンスのほか、1学年企業・大学見学、2学年就業体験、3学年進路面接などの進路関係行事が、役立ったと考えている生徒が80%以上である。	・各学年に適した進路行事と進路学習を計画し、実施する。 ・外部の事業者と連携し、生徒の進路選択に役立つ情報を提供する。	A	A	A	各学年の実態に適した、進路行事および進路学習が実施できた。また、外部の事業者・機関と連携し、進路講座の実施や進路情報の提供が行えた。今後も、よりよい進路学習の場を検討していきたい。			
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が、80%以上である。	・LHRや進路行事で常に進路意識を持てるよう工夫する。 ・生徒への進路相談と情報提供を積極的に行う。	C	B	B	今年度は空前の売り手市場ということもあり、就職を希望する生徒が増加し、希望の進路実現も比較的容易だった。しかし、事業所名や待遇面だけで就職先を決めようとする傾向が見られたため、今後は生徒や保護者に対し、より正確な情報提供ができるよう、努力していきたい。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 生徒の卒業後の進路希望について理解している保護者が、80%以上である。	・進路希望調査を機会として生徒と保護者で進路相談が行えるようにする。 ・保護者にも上級学校のオープンキャンパス参加を促す。	A	A	A	引き続き進路希望調査や三者面談をとおして、生徒と保護者が進路に関して相互理解を深められるようにしていきたい。生徒と保護者が一緒にオープンキャンパスへ参加するようになってきたので、今後も参加を促し続けたい。			
		⑭ 家庭や地域社会の人々に学校の教育活動を理解してもらうため、「学校公開」を年3回実施している。	・中学生学校見学会、中学生個別学校見学会、中学生ロボット競技大会、学習成果発表会の実施。	A	A	A	中学3年生を対象とした一日体験入学や個別見学会の実施、中学2年生を対象とした学校見学会、ロボット競技大会、学習成果発表会を実施した。今後も学校の教育活動を通して、情報発信を継続的に行いたい。			
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 学校行事や学校から発信される情報に、関心を持っている保護者が80%以上である。	・スマートフォンでも見やすいホームページの作成を心掛ける。また的確かつ迅速なホームページの更新により、最新の情報発信を心掛ける。	B	A	B	スマートフォンでも見やすいホームページになっているので、ホームページの更新頻度を増やし、動画や写真を増やしたり、デザイン等を工夫していきたい。			
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑯ ICTを活用して行われている授業や特別活動について、生徒の80%以上が満足している。	・授業改善委員会を通して、ICT機器の活用推進を図る。	A	A	A	プロジェクトや1人1台端末などのICT機器を活用した学習指導を行った。		
		⑰ ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・オンラインによるアンケート調査や情報収集を継続的に実施し、業務の効率化を図る。	A	A	A	ICTを生徒や保護者と学校の情報伝達等に活用し、業務改善を行った。			